

# 腸管バリア機能向上で訴求

## シクロケム αシクロデキストリン

6個のブドウ糖が環状に結合した糖質の一種であるαシクロデキストリン(CD)を原材料供給するシクロケム(神戸市中央区)。最近は同素材を腸管バリア機能向上の働きで訴求し、新規顧客開拓を推進している。

近年は、腸のバリア機能低下が原因とされる「腸モレ(リーキーガット)」に関心が高まってきている。腸モレとは腸管に穴が開き、腸管からウイルスや病原性細菌な

どの有害物質が血中や体性に大腸炎やアトピー性皮膚病、潰瘍、炎症などにも関与すると指摘されている。

この腸モレの原因の一つには、加工食品に利用される合成乳化剤が挙げられている。インビトロ試験では、合成乳化剤が腸管バリア機能を低下させることが確認されている。

そのメカニズムは、腸管を形成している上皮細胞の細胞膜を乳化作用で崩壊させ、細胞死させてしまうというもの。この合成乳化剤に対する

抑制し、腸管バリア機能を修復することが見出されている。一方、他の難消化性オリゴ糖や食物繊維では、同様の働きは確認されなかった。

αCDのこの作用メカニズムは、同素材が持つ包接作用に基づく。合成乳化剤を包接することにより、細胞膜を崩壊させるといふ合成乳化剤が持つ毒性を抑え込んでいく。

一方、αCDはゲスト分子として油脂を包接し、乳化することができ

る。このため、同社の寺尾社長は「合成乳化剤の代わりに乳化剤として利用できる」と話す。αCDの環状構造の外側は親水性が高い一方、内側は親油性が高いため、油脂を取り込み、水に分散できる。細胞膜は包接したため毒性が無く、「安全に使用できる」(寺尾社長)。

αCDのこの作用メカニズムは、同素材が持つ包接作用に基づく。合成乳化剤を包接することにより、細胞膜を崩壊させるといふ合成乳化剤が持つ毒性を抑え込んでいく。

一方、αCDはゲスト分子として油脂を包接し、乳化することができ